

地 域 再 生 計 画

- 1 地域再生計画の名称
0h！なんと夢響きあう元気の郷づくり計画
- 2 地域再生計画の作成主体の名称
島根県、邑南町
- 3 地域再生計画の区域
島根県邑智郡邑南町の全域

4 地域再生計画の目標

平成16年10月に石見町、瑞穂町、羽須美村の3町村で合併誕生した邑南町は、中国山地の中央部の島根県中南部に位置している。町の西南部には中国自動車道瑞穂インターを有し、広島市内や浜田市へは短時間で往来が可能であるほか、三次市等近郊都市部への交通アクセスも良好である。また、中国地方最大の江の川の源流域に位置し、広葉樹林が広がる豊富な森林やゲンジボタルやオオサンショウウオなどの希少種が生息する清流や、中国山地の山々の美しい緑に囲まれ神秘的な雲海が広がる於保知盆地・自然回帰高原や断魚溪、千丈溪、志都の岩屋などの優れた自然景観や棚田がつくり出す美しい農村景観を有している。さらに近接の世界遺産「石見銀山」と匹敵する銀の産出所「久喜・大林鉱山」や、日本刀の原料・玉鋼の名品「出羽鋼」産出地という歴史・文化の観光資源も有る。

合併により面積は419.2km²（市を除き県内1位）と広大となった。そのほとんどは標高100～600mであり、盆地と山地が組み合わされた優れた景観である。この広大な合併に際し、本町では特に子どもへの支援、子育て家庭への支援に重点を置き、町民、地域、行政が一体となって、子育てに関して目の行き届いた施策を実施することで、子育て世代の定住へつなげようと「日本一の子育て村構想」を策定し事業を推進している。子供から高齢者まで誰でもが住み慣れた家庭や地域、美しい自然の中で、豊かな心と暮らしを実感できる新しいまちづくりを推進するために、一人ひとりの夢が互いに響きあい、理想郷に向かって、力強く成長、発展・自立していくことを願い、自信と誇りに満ちた「夢響きあう元気の郷」づくりに努力している。

しかし、過疎化が進んでいることから、人口は11,524人（世帯数5,040）である。高齢化率は全国有数の島根県内でも41.9%と上位で、老人世帯や独居老人も多い。また、14才以下の人口は過去10年間で3割減少し、将来の生産年齢となる年少人口は減少している。

町内の主要幹線道路である国道・県道は総延長168,791mに対し改良率は60.5%と県平均より低い。町道は607,931mに対し67.6%と県平均を上回っているものの、幹線道に連絡するアクセス道の未整備地域が町周辺部に集中している。これらのことから、幾つかの課題に直面している。

小子高齢化により、独居老人は増加の傾向にある。介護者も高齢化しており、家族介護力は低下し介護に対する意識の変化から、施設入所希望が増え新規入所は困難な状況にある。今後は在宅で専門員が介護にあたる訪問介護やデイサービスセンターへの送迎による介護予防事業等の機能拡充と質の向上を図る必要がある。又介護予防として生き

がい活動支援や高齢者の筋力トレーニング教室を通じ健康寿命の延伸を図る。しかし、要介護者の多くは小集落が点在する町周辺部に集中しているため、幹線道までのアクセス道が狭く併せて線形も悪く、待機場所が少ないことから車両同士のすれちがいに時間を要し、効率的な介護事業の妨げになっている。十分なサービスを受けられない世帯も多いため、周辺部のアクセス道改善が急務となっている。

町の基幹産業である農業については、後継者不足や高齢化等により、産出額がこの10年間で3割程度減少している。こうした生産年齢人口の減少は、産業振興の低下はもとより、農業生産における耕作放棄地の増加や林業生産における森林の荒廃など、自然景観を著しく損なっている。このため生産組織の育成を図り特定農業団体や農業法人の設立が重要な課題となっている。平成26年現在18の農業法人が誕生した。今後、農業法人や集落営農等地域民が一丸となった農業組織化を推進し、農業基盤を整備することにより大型機械の導入などコスト縮減に努め、より採算性の高い魅力ある農業を目指している。

林業については森林の持つ多面的機能維持の為にも重要な事業であるが、林家数の減少と小規模林家の増加から森林所有者自らによる効率的な林業経営は困難となり、更に国産林の利用低迷等林業を取り巻く環境は厳しい。今後は町内産材の利用推進を図るとともに、森林施業の共同化や林業事業体の育成やコスト低減のため林道作業道などの基幹林道を軸とした路網整備が課題となっている。

住民の生活面では、病院、学校、事業所、行政機関など新町の主要施設が町の中心に集中している。公共交通機関が業務縮小を検討する中でも、町としては、周辺町民や交通手段のない高齢者や障害者は日常生活に不便や不安を解消するべく、町民誰もがいつでもどこへでも短時間で移動できるよう地域間を結ぶ町営巡回バス、スクールバスの充実や、民間交通を組み入れ、利用しやすい公共交通体系を整備し周辺町民の不安を一掃する。このためにも幹線道及びこれに通じる支線の整備が必要である。

また、近年多発する自然災害に対し、住民の安全・安心な生活を確保するため、平成26年6月に地域防災計画を改定し、「助け合う心と思いやりのあるまちづくりから」を基本理念とし、災害発生時における「減災」を防災の基本方針として、たとえ被災しても人命が失われないことを最重視し、かつ経済的被害ができるだけ少なくなるよう様々な対策を組み合わせて災害に備えることとしている。その対策の一つとして防災拠点を連絡する道路を「緊急輸送道路」として位置づけ災害発生時における応急対策活動を迅速に行うこととしている。

町では、「食」を今後の地域活性化に向けた重点テーマに据え、農林商工等の異業種間が連携し「生産」「加工」「調理」「交流」の各産業分野の更なる革新に取組み、地域で生産される良質な農林産物を素材とする、「ここでしか味わえない食や体験」を“A級グルメ”と称し、邑南町中心地にある香木の森に隣接する「素材工房 味蔵」を拠点に、観光・交流人口の拡大を目指している。また、農家を開放し、いろんな田舎体験を満喫できる民宿とはひと味違う、「農家民泊」を行っている。鮎釣り名人やおはぎ作りの名人川遊びの達人などと都会では味わえないひとときを提供する。現在農家民宿7件、農家民泊30件で、会員は131人となっており5年間で17件、32人増加している。平成26年に開校した町営「食の学校」では、著名な料理研究家などによる料理教室を行い技術の向上を図り、邑南町田舎ツーリズム推進協議会では接客等のサービスの向上や経営指導を行っている。しかし、民泊を利用する観光客の多くが学生であり、夏休み期間に集中する。学生以外の中高齢者層にも魅力ある新たなメニューづくりを行い、四

季を通じた顧客が得られるか、今後の課題である。

上述した基幹産業、住民、観光の3点の地域特性を生かした事業としては、新鮮で安全な野菜などを供給する産直市「産直市みずほ（組合員数459人）」や「雲井の里（組合員数253人）」を開設しており、小・中規模の生産農家の「顔」がみえる販売所として観光客に好評である。さらに、この農林産物販売を行い産業振興に寄与し生産組合員の広域的参入を喚起する為、地域間営農ネットワークを構築し農業技術の向上や良質な農産品の生産に努めている。また、林業においても木材価格の低迷など、農業と取り巻く環境同様大変厳しいが、道を整備することで生産や輸送コストの縮減、椎茸等の特用林産物等々の地域産業個々の振興を図りながら森林の整備を行うことにより、美しい町土を継承する。

このように、合併を機に地域の実情を見つめ直し、山陰・山陽の接点としての地域特性を十分に生かした交流による産業の活性化を進める。さらに、新町各地域間を結ぶ基幹道路網を整備することで、生活路線としての公共交通機関、更には21世紀の情報化時代に対応する高速情報ネットワークなど町民を支える様々な機能を高め、地域を結ぶ基盤整備を進め、「夢響きあう元気な郷」を目指す。さらには、美しい郷土の自然を守り、将来へ継承し、町民一人一人が健康で心豊かな生活が出来る「夢響きあう元気の郷」づくりを目指す。

・目標1) 農林業の振興

各林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮

(計画起点から木材市場までの運搬時間は計画前後で変わらないため含めない)

三坂小林線 12.8分(H26)→8.8分(H29)→6.4分(R3)

本田下線 11.7分(H26)→9.7分(H29)→7.8分(R2)

猪子山線 1.7分(H26)→1.6分(H29)→1.5分(R2)

皆井田円の板線 0.6分(H26)→0.6分(H29)→0.4分(R2)

・目標2) 町道整備による病院へのアクセス改善

病院等への走行時間短縮

(町道中ノ原新山線上田所地区から救急指定病院邑智病院)

22分(H26)→21.5分(H29)→21分(R2)

(町道高見宇都井線宇都井地区から救急指定病院邑智病院)

31分(H26)→30.5分(H29)→30分(R2)

・目標3) 福祉車両・救急車等の通行困難な箇所の改善・災害時の迂回路の確保

町道未整備延長144m(H26)→87m(H29)→0m(R2)

(町道西日向線西日向地区～国道261号の間)

・目標4) 年間観光入込客数の増

91万人/年(H26)→97万人/年(H30)→100万人/年(R2)

・目標5) 林業の振興

森林整備実施面積の増加

(過去5年間の整備実績) (H27～R元の整備計画)

314ha (H26) → 319ha (H29) → 324ha (R2)

・目標6) 地域防災

緊急輸送道路の機能保全

広域農道邑南線危険個所の解消

(過去5年間の整備実績) (H28～R2の整備計画)

8箇所 (H27) → 6箇所 (H29) → 0箇所 (R3)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

旧町村間を連絡する高見宇都井線、幹線道路間を結ぶ中ノ原新山線、西日向線を一体的に整備するとともに広域農道邑南線の危険個所を解消することにより、広大な区域となった町内の移動環境の改善や緊急車両の通行、住民の避難路の確保を図る。また基幹林道県営三坂小林線、皆井田円の板線の開設事業により新たな林道網整備を図り、林業施行の効率化と市場へのアクセス向上、農林産物輸送コストの低減を図り、農林業経営の効率化に寄与する。

事業実施により新町中心地への移動時間短縮が図られるほか、香木の森公園や石見温泉霧の湯、瑞穂ハイランドスキー場等の娯楽施設や棚田保全地区、自然回帰高原、赤馬滝などの町内各地にある景勝地に四季を通じて訪れる観光客の利便性も向上し、地域経済活性化による地域再生が図られる。

5-2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5-3 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金【A3001】

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続きを了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

・市町村道：道路法に規定する町道認定月日は以下のとおり。

- 1 町道中ノ原新山線 昭和37年 4月1日町道認定 (旧瑞穂町)
- 2 町道高見宇都井線(旧羽須美分) 昭和63年 6月24日町道認定 (旧羽須美)
- 3 町道西日向線 昭和62年12月23日町道認定 (旧石見町)

・林道：森林法による江の川下流地域森林計画 (平成27年4月樹立) に路線を記載。

- 4 林道三坂小林線
- 5 林道皆井田円の板線
- 6 林道本田下線
- 7 林道猪子山線

・広域農道 (保全対策)

- 8 邑南線

- | | |
|---------|---------|
| [施設の種類] | [実施主体] |
| ・ 町道 | 邑南町 |
| ・ 林道 | 島根県、邑南町 |
| ・ 広域農道 | 島根県 |

- [事業区域]
- ・ 邑南町

- 「事業期間」
- ・ 町道（平成27年度～令和元年度）
 - ・ 林道（平成27年度～令和2年度）
 - ・ 広域農道（平成28年度～令和2年度）

- 「整備量及び事業費」
- ・ 町道0.9km、林道8.3km、広域農道10.2km
 - ・ 総事業費 1,661,000千円（うち交付金 830,500千円）

町道	266,000千円	（うち交付金 133,000千円）
林道	772,000千円	（うち交付金 366,000千円）
広域農道	623,000千円	（うち交付金 311,500千円）

5-4 その他の事業

5-4-1 地域再生基本方針に基づく支援措置
該当なし

5-4-2 複数事業と密接に関連させて効果を高める独自の取組
該当なし

5-4-3 支援措置によらない独自の取組

(1) 利用しやすい交通体系の整備

内 容 民間公共交通機関が事業を縮小する中であっても高齢者や障害者が利用しやすい公共交通サービスを維持するため、町営バスの運行を継続するとともに、乗り降りしやすいバスの車両更新等により、更なる町内の移動の効率化・利便性向上を図る。（邑南町単独事業）

事業主体 邑南町
実施期間 平成27年4月～令和元年3月

(2) 参加・滞在型観光の推進

内 容 邑南町田舎ツーリズム推進協議会を平成17年度設立。民泊受入農家を募集育成し、安らぎと憩いの空間を提供することにより特色ある農村滞在型観光を推進する。（邑南町単独事業）

事業主体 邑南町
実施期間 平成27年4月～令和元年3月

(3) 新しい農林業の創造

内 容 団地内の農地や農道などの基盤整備を行い、大型機械の導入などによりコスト削減を図る。又水田を畑地化等により水稲中心の農業から野菜などの付加価値産物への転換を促進する。森林整備の効率化のため、基幹林道を軸とした作業道を新設し団地内の路網整備を進める。
(農林水産省 農村基盤整備促進事業)

事業主体 邑南町

実施期間 平成27年4月～令和元年3月

5-5 計画期間

平成27年度～令和2年度

6 目標の達成状況に係る評価に関する事項

6-1 目標達成状況にかかる評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に島根県邑南町が必要な計測調査等を行い、速やかに状況を把握する。

目標1 施工延長により評価し、計画前後の走行速度の差で、どれだけ走行時間が短縮できるかで示す。なお、計画起点より木材市場までの時間は計画前後で変わらないため含めない。

*算定式 走行時間短縮＝整備前の走行時間－整備後の走行時間（分）

目標2 実地走行調査により事業区間起点から病院までの総走行時間を計測し、評価する。

*算定式 走行時間短縮＝整備前の走行時間－整備後の走行時間（分）

目標3 実績整備延長調査により、整備完了の延長で評価する。

*算定式 未整備延長＝計画延長－整備延長（m）

目標4 観光施設入り込み客数調査による、客数調査で評価する。

*算定式 年間観光入り込み客数＝観光動態調査入り込み客数＋邑南町管理施設入り込み客数＋邑南町観光協会調査入り込み客数（万人）

目標5 三坂小林線の林道利用区域内の森林整備実施実績を邑南町の森林整備実績データにて集計し、計画期間内の延べ面積で評価する。なお、本田下線、猪子山線については舗装工事であるため、森林整備面積増進効果は見込まない。
また、皆井田円の板線については、開設工事初年度になるため森林整備は翌年度からとなるため森林整備実施面積は見込まない。

目標6 広域農道邑南線において各年度に実施した危険箇所解消箇所数を集計

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	路線名	2015.4 基準年	2018.7 中間年度	2021.7 最終目標
目標1		基準値 (H26)	目標値 (H29)	目標値 (R3)
農林業の林道終 点から邑智郡木 材市場までの輸 送時間短縮10分	林道合計	26.8分	20.7分	16.1分
	三坂小林線	12.8分	8.8分	6.4分
	本田下線	11.7分	9.7分	7.8分
	猪子山線	1.7分	1.6分	1.5分
	皆井田円の 板線	0.6分	0.6分	0.4分
目標2		基準値 (H26)	目標値 (H29)	目標値 (R2)
走行時間短縮	町道中ノ原 新山線	22分	21.5分	21分
走行時間短縮	町道高見宇 都井線	31分	30.5分	30分
目標3		基準値 (H26)	目標値 (H29)	目標値 (R2)
町道未整備延長 (整備延長)	町道西日向 線	144m	87m	0m
目標4		基準値 (H26)	目標値 (H29)	目標値 (R2)
観光入込客数増	邑南町内	91万人	97万人	100万人
目標5		基準値 (H26)	目標値 (H29)	目標値 (R2)
森林整備実施面 積の増加	森林整備	314ha	319ha	324ha
目標6		基準値 (H27)	目標値 (H29)	目標値 (R3)
広域農道の危険 個所の解消	邑南線	8箇所	6箇所	0箇所

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収 集 方 法
林道終点から邑智郡木材市場までの輸送時間短縮 10分	路線ごと各年度の施工実績による 時間算定
町道整備による病院へのアクセス改善	路線ごとに実走行時間調査による 時間算定
福祉車両・救急車等の通行困難な箇所の改善・災 害時の迂回路の確保	実績延長調査による未整備延長算 定
年間観光入込客数増	観光動態調査、邑南町管理施設調 査、観光協会入り込み客数調査に よる算定
森林整備実施面積の増加	本計画期間内の邑南町の毎年の森 林整備実績データより集計
広域農道危険個所の解消	事業実施各年度において解消個所 数を把握

・ 目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

6-3 目標の達成状況に係る公表の手法

4に示す地域再生計画の目標の達成状況を始め中間評価及び事後評価の内容を適切な時期にインターネット（邑南町ホームページ内各課の紹介コーナー建設課）により公表する。

6-4 その他

該当なし

7 構造改革特別区域計画に関する事項

該当無し

8 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当無し

9 産業集積形成基本計画に関する事項

該当無し